

区 分	薬 剤 名	剤型	判定	処理方法	処理時期	使 用 量	適用土壌	適用地帯	使用上の注意
7) てん菜	U-67	水 和	実・継	土 壌	移植後 雑草発生 前	25~35 g/a	全土壌	寒 地	移 植.

昭和51年度水稲・畑作関係 生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会技術部

昭和51年度水稲・畑作関係生育調節剤試験成績検討会の結果を報告する。本年度は水稲関係8剤，畑作関係9剤，その他マルチ関係で4点

が供試されたが，その検討結果を示すと次表の通りである。なお，マルチ関係については，別の検討会を開催し検討する。

昭和51年度 水稲・畑作関係生育調節剤審査判定および使用基準

I 水 稲 関 係

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
1) N-2000 水和	・9-ベンジルアデニン 1%	・倒伏防止.	継		・倒伏防止には明らかな効果は認められなかった。散布部位と効果との関係を検討する必要あり。
〔参考〕 (昭和48年度) (昭和49年度)		・活着促進効果。 ・苗の乾物重増大。 ・ペーパーポット苗ばらまき後の苗屈起促進。	実 および 継	・普通苗代では田植えの2週間前頃の茎葉に20ppm水溶液を100ml/m ² 噴霧処理する。展着剤は使用しない。 ・稚苗では田植え1週間前に20ppm水溶液を120ml/m ² 茎葉に噴霧する。展着剤は使用しない。 ・苗の屈起促進のためには，田植えの7日前に20ppm液を200ml/m ² 散布する。	・適用地域の拡大。 ・本田における耐倒伏性 ・耐肥性について検討。
2) KC-481粉	・ニコチン酸アミド 50%	・健苗育成。 ・活着促進。	継		・根部生育が促進され活着促進効果は認められる場合もあるが出芽防止など発芽時の稲に対

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
2) K O - 481 粉 (つづき)					する葉害も懸念され更に検討が必要である。
[参考] K O - 481 液 (昭和 50 年度)	・ニコチン酸アミド 10 %		[寒地] 実 [他地域] 継	・播種時 10~20ml/箱 散布する。 ・タチガレン処理を併用 する。	
3) オキシベロン液	・インドール酪酸 0.4 %	・発根促進。 ・活着促進。 ・健苗育成。	実 および 継	・播種後 10日 500 倍液 を育苗箱当り 500ccを 灌注する。 ・タチガレン処理を併用 する。	・使用基準をこまかくつ めておく必要がある。
4) カルパー 粒	・Ca O ₂ 54 %	・稲ワラすき込 みによる活着 不良防止、根 ぐされ防止。	実 および 継	・400~800 g/aを生わ らと一緒にすき込む。	・現場の不良環境での諸 条件の検討。
[参考] (昭和 48 年度)		・機械播種のため の剤の開発 および播種法。 ・湛水直播にお ける苗立の安 定化。	実 および 継	・浸漬粉 100gに対し 30g を粉衣して播種する。 ・適用条件：湛水直播。	・作業機との関係を更に 検討。
5) ベンジルアデニ ン (BA) 液	・N ⁶ - ベンジルアミノ プリン 3 %	・活着促進。 ・老化防止効果。	実 および 継	・1~1.5 葉期に 10~ 20ppm 液を 50ml/箱 散布する。	・効果確認に関する条件 解析と高効果発現のため の適用品種。 ・中苗での検討。
6) N G R - 10 粒	・未公開	・健苗育成。 ・活着促進。 ・初期生育促進。	継	いわゆる“ズングリ型” となり、活着がよく なる傾向のみられるところ もあるが、さらに試験の蓄 積が必要である。	・稚苗育苗では十分な効 果は認められなかった。 ・中苗、成苗での検討。
7) ACP-68 - 250 液	・2-クロロ-エチル -フォスフォニック アシド 10 %	・倒伏防止。	継		・穂首節間は短くなるが、 倒伏防止効果は認められ ない。
8) M-11 液	・未公開 5.1 %	・活着促進。 ・生育期別の処 理効果の確認。	継		・増収効果が認められた 例もあったが、一般的 には効果不明瞭であっ たので、増収に関連す る具体的な作用性を明 確にする必要がある。

II 畑作關係

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
1) J G - 01 粉	・椎茸菌糸体抽出エキ ス 100 %	〔大豆対象〕 ・増収効果。	継 ?		・効果不明瞭。
2) ビーナイン水溶	・N - (ジメチルアミ ノ) - スクシンアミ ド酸 80 %	〔落花生対象〕 ・増収効果。	実 および 継	・適用地域：暖地。 ・適用品種：パー ジニア タイプ ・開花後30日頃、7.5 ~ 10g/aを100l/10a の 水量で散布。	・適用地域の拡大。
3) K P - 1100 乳	・特殊アニオン型界面 活性剤 28 %	〔落花生対象〕 ・摘花による増 収効果。	実 および 継	・適用地域：温暖地以西。 ・適用品種：パー ジニア タイプ。 ・300倍液、20l/a を 開花後30日以後に散布 し、更に10日~2週間 後、もう一度散布する。	・寒冷地への拡大。 ・温暖地以西での交雑種 についての検討。
4) K P - 1200 乳	・未公開 25 %	〔落花生対象〕 ・摘花による増 収効果。	継		・効果の変動が認められ る。更に継続検討。
5) カルパー 粒	・Ca O ₂ 54 %	〔こんにゃく対象〕 ・生子の増収効 果。	継		・更に継続検討。
		〔馬鈴薯対象〕 ・生育促進効果。	継		・効果不明瞭。
		〔菜豆対象〕 ・過湿畑の湿害 防止。 ・発芽促進。 ・初期生育促進。	継		・効果不明瞭。
6) A C P - 68 - 250 液	・2-クロロエチル ーフォスホンニッ ク アシド 10 %	〔麦対象〕 ・倒伏防止。	継		・倒伏防止効果は認めら れるが、害(出すくみ) もでている。濃度と時 期との関連から検討を 要する。
7) C C C 液	・2-クロロエチルト リメチルーアンモニウ ム クロライド 46 %	〔小麦対象〕 ・倒伏防止。	継		・倒伏防止効果は認めら れ、有望であるが、更 に継続して検討する。
8) レグロックス液	・ジクワット ブロマイ ド 30 %	〔小豆対象〕	実 および 継	・収穫7日前に15 ~ 30 ml/a を散布する。	・処理時期の確認。

薬 剤 名	有効成分および含有率	試 験 目 的	判 定	実用化に対する処理法	継 続 の 内 容
9) 31603-S 水和	・2-ベンズイミドイ ル-3-ヒドロキシ -1.4-ナフトキノ ン 9%	〔早掘り馬鈴薯 対象〕 ・早期収量の向 上.	継		・年次による効果の変動 が大きく、点数をふや してみなければ効果の 判定が難しい。 ・作用性の検討.

植調第10巻第10号の訂正について

昭和51年度春夏作野菜・花き関係除草剤（材）、生育調節剤（材）試験成績概要(1)の判定表24頁、「3. キク（ポットマム、福助作り）E L-531液剤」の今回の判定が「継」となっておりますが、印刷の誤りでありますので、「実」と訂正下さるよう、お願い申し上げます。

財団法人日本植物調節剤研究協会編

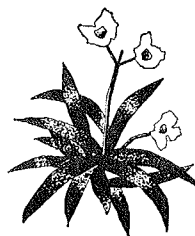
Weed List in Asian-Pacific Area

各国の雑草の呼称名を学名と対照した雑草名鑑。学名に対し日本名、英名、ハワイ名、インドネシア名、中国名、台湾名、ソビエト名、韓国名を対照している。

A4版 47ページ
定 価 2,000円（送料別）

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育教会内
発行所 植 調 編 集 印 刷 事 務 所
電話 東京（03）436-3388番

水田中期除草剤の実力派—!



●水田の中期除草に

アピロサン®粒剤

- 除草効果が極めて優れた、新しい茎葉兼土壌処理剤です。
- 抑草期間が長く、1ヵ月以上にわたって雑草の発生を抑えます。
- ノビエ・コナギなど各種1年生雑草に卓効を示します。
- 多年生雑草のマツバイやヘラオモダカ・ヒルムシロにも優れた効果があります。
- ホタルイやミズガヤツリにも効果の高い前処理剤との体系処理で十分な効果を発揮します。

アピロサンはスイス国、チバカイギー・リミテッドの登録商標

●水田雑草の総合防除に

ワイダー®粒剤

- ほとんどの1年生雑草、マツバイと全国的に多発し問題になっているミズガヤツリ・ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ・ヒルムシロなどの各種多年生雑草を同時に防除できる水田総合除草剤です。
- アピロサン粒剤・ワイダー粒剤ともに、低温条件下でも薬害が少なく安全に使用できます。

アピロサン・ワイダー普及会

武田薬品・石原産業・日本チバカイギー・BASFジャパン